

着

mono 通信

yoroduya

2023・8 vol.59



原町本店
〒975-0003
南相馬市原町区栄町2-83
TEL: 0244-24-2929

いわき店
〒970-8026
いわき市平三倉69-8 第2地産ビル1F
TEL: 0246-85-5298

みなさまこんにちは！！毎年のことながら、本当に暑いです！私が子供のころは、30度以上の気温になるなんて、夏の間に1回か2回だったと思います。もちろんエアコンなどというものもありませんでしたし、家の中は風通りが良かったので、扇風機くらいで十分でした。もう、今となっては夏の間に壊れて困る家電のナンバーワンはエアコンですね。さて、エアコンも最近では省エネなどの高機能のものが多く、昨今の電気代高騰にはありがたい話なのですが、電気代が気になってエアコンをつけるのをためらう方も多いかと思えます。エアコンは、スイッチを入れたり消したりするよりもつけっぱなしの方が電気代がかからないそうです。また、除湿などのドライ機能の方が冷房よりも電気代がかかるなど、これまで知らなかった情報が！電気代も心配ですが、熱中症になっては元も子もありません。どんなに室内を涼しくしていても、こまめな水分補給は必要です。みなさん、くれぐれも気を付けて暑い夏を乗り越えましょう！

さて、今月は年に2回のお楽しみ企画「草履のお誂え会」です。この機会に草履のメンテナンスはいかがですか？また、台や花緒を選んで自分だけのオリジナル草履もお作りできます。夏の草履や下駄なども取り揃えております。足元から着物のおしゃれを楽しみませんか？

＜原町本店 ブックコーナーご利用ください＞

原町本店に新しくブックコーナーを設けました。女将が選んだ着物の本や、雑誌などが並びます。お気軽に手に取っていただいて、ゆっくりご覧いただければと思います。今回はその中でもおススメの新刊本をご紹介します。



藤工房 加藤静子
和のコート集
着物や帯を守るために羽織るコート。本書は、1906年に創業した老舗の「仕立の店・藤工房」の和裁士・加藤静子が長年にわたり、制作してきた数々のコートをまとめた作品集です。卓越した和裁技術から紡ぎ出された、美の境地が詰まっています。見るだけでため息が出るほどの美しいコートたちをぜひ本書でご覧ください。



山崎 陽子
おとなの浴衣、はじめます
浴衣を春から秋まで楽しんでたくさん着たい！コーディネートアイディアや、TPOの着こなし術など山崎陽子さんの世界観が満載。浴衣の着こなし、帯の結び方、お手入れの仕方などこれから浴衣を楽しみたい方におススメです。夏祭りと花火大会だけじゃないおとなの浴衣の楽しみ方が学べる1冊です。



「美しいキモノ」「七緒」など、着物雑誌の新刊も常備しています。

今年も！！
秋の大総力祭

原町本店 9月7日(木)～9日(土)

南相馬市民文化会館ゆめはっと 多目的ホール
10時～18時(最終日は16時まで)

いわき店 11月9日(木)～11日(土)

いわきラトブ 6階企画展示ホール
10時～18時(最終日は16時まで)



< にっぽんの色と文様～その8 葉月編～ >

日本の自然や文化から生まれた伝統の色や文様について一緒に学びましょう！

夏の暑さを感じさせない色と文様

暑い夏こそ色と文様は涼し気に！



天青

天青(てんせい)

晴れた日の青空のような、明るい色です。藍と蘇芳(すおう)で染めるとされており、澄んでいるようで、どこか曇りの気配を帯びています。スーツと溶け込むような美しさが、心を晴れやかにしてくれます。



秋草文 秋を代表する植物を単独、あるいは取り合わせて描いたもの。秋草は儚げで風情があるとされる日本独自の文様の一つです。代表的なものではハギ、ススキ、クズ、ナデシコ、オミナエシなどを取り合わせた「秋の七草」が有名です。不老不死、延命長寿の縁起が託されています。



麦藁色(むぎわらいろ)

黄色と橙色を混ぜた明るい色です。夏に収穫されることから麦藁は夏の季語とされ、昔から俳句や短歌で親しまれてきました。朗らかで優しい色合いは、夏の日差しの中に、ほんの少しの涼しさを与えてくれます。



麦藁色

魚文 この文様は、仏陀の足の裏の形を石の上に刻んだとされる仏足石をはじめ、木魚のルーツとして知られる魚板や魚鼓などでも見ることができ神仏加護に通じます。また、魚は多産であることから、富貴繁栄、子宝繁栄の願いを託すことができます。



波文 日本は海に囲まれた島国。そのため、多種多様の波文を見ることができ、波の状態などが文様名として使われ区別されています。各種の波文は、旗印、武具などや、大漁旗、男性用着物、羽織などでも数多く使われています。

<きもの語 辞典> えの巻

着物に関して、わからない言葉や知りたい言葉などたくさんあると思います。専門用語が飛び交う中で??に思うことも多々ありますよね。そんな着物にまつわる言葉を集めて簡単にご紹介していくコーナーです。

<絵絣(えがすり)> 絣であらわした絵模様。風景や動物、吉祥文様や幾何学文様まで、絣で描き出した絵柄は様々なものがあります。

<絵羽(えば)> 模様が縫い目を渡って、一枚の絵のように染め描かれた着物や羽織を「絵羽もの」といい、そういう柄付けを「絵羽模様」といいます。縫い目で模様が途切れないよう、仮仕立てした白生地を下絵を描いてから、縫い目を解いて染めを施すという手間をかけたものです。

<衣紋(えもん)> もともとは着物の着方だった言葉で、着物の後ろ衿のことをいいます。今は着物の衿を抜くことを「衣紋を抜く」といいます。

<衿肩あり(えりかたあき)> 和裁の用語で、着物、羽織、襦袢などの肩に衿をつけるための切込みのこと



※こちらの商品はご注文後の入荷となります。

今月のおススメ！

＜たかはしきもの工房
べっぴん帯板 簾＞
9,680円(税込)

今月のおススメ商品は、たかはしきもの工房の新品「べっぴん帯板 簾」です。そう、なんと帯板が簾でできているのです！使用している簾は、老舗のブランドのレパトリーの中でも一番細い簾を使用。日光は遮断して、風は通すという簾の快適さを帯板にしてしまうところが、さすがたかはしきもの工房。天然素材の竹が、まるで呼吸をしているかのような、驚きの快適さ。熱がこもりがちの帯の中に、まるで風が通っているかのように圧倒的な通気性を持っています。しかも48cmの持ち運びには適さないサイズの帯板が、直径わずか4cmのコンパクトサイズに！ゴムベルトはメッシュでできていてさらに快適。暑い夏におススメの驚きの帯板です！



…女将のつぶやき…

暑いです。外に出たくない…思いを振り切って、先日久しぶりにオーケストラを聴きに行きました。クロネコヤマトが主催の無料のコンサートだったのですが、子供から大人まで楽しめて、さらにはクラシックに馴染みのない人までもが気軽に聴けるコンサートでした。オーケストラの演奏会ってすごくお金がかかるんです。だからといって高いチケット代を払って満足できるかという点と必ずしもそうではなかったりします。オケだって指揮者によってだし、ソリストが良くてもオケがいまいちとかもあるんです。それもこれも全部含めてやっぱり生演奏で聴くオーケストラは最高に面白いということです。今回の演奏は、山形交響楽団で指揮は飯森範親。安定の演奏は心地よく、とても良い癒しの時間となりました。ゆめはっとでオーケストラ公演をたくさんやってほしいなあ…

